

刊夕日八十月五

常磐書目新聞

定価一冊五銭一冊五拾銭郵費五銭
 廣告料五銭十二字以上一行五拾銭
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常磐書目新聞社
 印刷所 常磐書目新聞社



波立薬師 (一)

霜月寮 白土五郎

△詩人と波立寺
 陸奥の木奴美浦に旅寝し
 て、明日や拜まん波立の
 寺

これは西行法師の歌であ
 る。西行は平安朝末期の詩
 人である。今を去る八百餘
 年の木奴美浦は緑松浦に添
 ふて茂り、前は太平洋の岸
 打つ怒濤に根を洗ひ、北は
 巍峨として海上に突出して
 る。殿上山の屏風の如き
 大岩壁の老松は降龍の如く
 前面の横磯に打ち當て、亂
 飛する怒濤は百萬の白馬が
 立髪をなびかせて亂舞する
 か如く、後景の三ツ森、五
 社、猫鳴の阿武隈連峯の緑
 樹は碧空と色を異にしてゐ
 たであらう。かうした大自
 然を背景にして西行は、平
 安の初期、大同の昔、大聖
 徳一大師の開基たる幽遠に
 してあらたかなる波立寺を
 松越しに見て歌ふた歌であ
 らう。

明治の末年、かの化物博
 士で名高い井上圓了氏が波
 立寺に運び、その時の詩に
 洗眼鰐淵巖上風
 水天一碧望舞窮
 松洲雖美何能及

波立寺前氣象雄
 何人か鰐ヶ淵のあの打寄せ
 る怒濤の渦巻。散り上る風
 ぶき、盛上る波浪の雄々し
 き莊嚴さを見て膽を冷やさ
 ぬものがあるか。

眼を轉すれば大辨財天岩
 の奇景、岩にはふ樹は龍の
 如く千古の謎を包んでゐる

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁ーさつま芋
 小付 すゝめやき

【書】煮付ー鱈
 清汁ー白須干 若芽

遊客、一度こころみに鰐ヶ
 淵巖上に立つて四方を眺望
 せよ。

瀬戸内海の明石、舞子、
 須磨の箱庭的風景にあらず
 人工的、女性的技巧美にあ
 らず、無限の蒼海、無窮の
 碧空、男性的素朴にして大
 自然の真如法界の薬師瑠璃
 光如來の無我の境地に、自
 然の偉大なる懷に、雄々し
 き大慈悲の中に人をして遊
 ばしむ。
 現今の如き何も彼も機械
 文明に追い攻められ、イラ

くした神經、キユくと
 齒の浮くやうな鐵を裂く厭
 な音、鐵の爪で掻きムシら
 れる様な鋭いネオンの光り
 斷末魔の悲鳴に似た自動車
 の音、かふしたセツコマ
 シイ生活から一日でも離れ
 この大自然の懷に抱かれて
 薬師瑠璃光如來の大慈悲の
 無我の仙境に逍遙せよ。



自己を最後の一人に

島田道夫

眞・喜・美・聖ーを追求す
 人生の勇者
 幾星霜か流れた
 苦痛の爲めか
 嘲笑を恐れてか
 大半は断念すー弱き人の
 姿よ幾十年の後ー叫ぶあ
 り
 こんな事馬鹿馬鹿しい
 恐らく誰も出来ないだら
 う
 何の意義がある
 苦難、嘲罵を外に残るは
 只一人
 苦痛の時を越した
 峻しき道も平坦
 希望を棄てずー生命のあ
 る限りー
 完成す、ほんの瞬間ー朝
 の微光と共に
 忍従せー偉大なる最後の
 一人の姿

電話増設
 電話二二三一番 (支店長宅)
 平町三丁目
 株式會社 七十七銀行平支店
 電話四一四番

高久病院
 院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 平町田町 電話五二三番
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

鈴木醫院
 醫學士 鈴木 正男
 平町田町 (電話五八番)
 藤田女學校前
 炊のお需めに應ず
 入院の便あり

光の春を駆て！
 皆様旅のガイド
 不二の車は待つー
 タクシー不二
 未知ノドライブコース
 オ問合せ下さい
 電話 32番

糸イラズ
 專賣特許一二二四五二號
 松 惠 製 藥 所
 新時代に適合せる家庭必需品
 裁縫代用糊
 イトイラズ：即ち糸や針を用せず毛織物や木綿布類の縫合せ(繕ひ)が樂に出來ます
 特 何回洗濯しても離れず、伸縮自在(メリヤス、毛糸編物穴アキ)硬化する事なし
 徴 (ヤワラカデス)
 イトイラズは當藥局に永い間試用研究致し完全無欠の確信を以て發賣致しましたもので、絶對他品類似品の追従を許しません。東京三越、白木屋、松屋、松坂屋、高島屋各デパートで發賣中、すばらしい好評を博して居ります。
 圖實物宣傳は各特約店で致し居ります
 平町古鍛冶町縣社の下
 處方調劑所 阿康藥局
 電話 四四番
 振替口座 東京三〇〇六五

平町古鍛冶町縣社の下
 レストラン 平厩館
 電話 624

喜多流謠曲と仕舞の
 お稽古をお奨め致します
 平町田町六九
 喜多流 謠曲 舞曲 白土會
 入會隨時 電話一二七番

新設電話の

當籤者決定

既報平郵便局の特設電話十箇を決定する抽籤は本十八日午前十時から同局樓上で係員立會の許に抽籤機に依り執行された結果、當選者及び電話番号左の如く決定した

- 七二三 二丁目鈴木堅助
- 七二四 大町鈴木興一
- 七一五 四丁目山崎ヨシ子
- 七一六 内郷新町
- 清野彦四郎 七一七 大町小宅嘉久治 七一八
- 新川町吉野勇 七一九
- 白銀町本田今朝治 七二〇
- 一 紺屋町久野淺次 七二一
- 二二 南町片寄半三郎 七二二
- 七二三 田町金子スイ

教員俸給

國庫負擔

校長等運動

平町小學校校長篠山、千葉、赤津の三氏は今明の二日間須賀町に開かれる縣下小學校長協議會に出席、過般の郡下校長會で決定した「北海道東北六縣下小學校長教員俸給金額を國庫に於て負擔することを其筋に建議するの件」を建議題として提出する事になつたが來月七日開かれる石野教育會總集會に於て右議題を決議し縣下教育總會にも提議目的の貫徹を期す由

正副團長が留任

昨日の平青年團總會

優良團員を表彰

平青年團にては既記の如く昨日午後一時から平第三小學校講堂に總會を開き左記の如く優良團員を表彰したが正副團長の改選は満場一致を以つて

團長 大嶺庫 副團長 山崎忠兵衛 同青天目源一郎

の三氏留任と決定來賓總代大森顧問の祝辭あつて讀賣新聞社外報部次長鈴木東民氏が「世界はどう動くか」の演題下に伊、エ戦争と英國の關係より説き起し獨乙の近況、日、ソの問題等に言及し歐洲の危局は經濟力を根底とせる平和工作が勝を制して結局戦禍を招來せずし大喝采を博した

長橋町 武田安右工門
研古 見瀬一男 紺屋町
鈴木藏太 材木町 菅波
角造 一丁目 森下民藏
二丁目 坂田一馬 三丁

警察部長の初巡視

昨日平署員に訓示

新任警察部長小田光伴氏は平地方初巡視の爲め昨十七日午後六時來平、平署員に訓示を行つて湯本町に一泊

今十八日は植田署を視察して後入山炭礦を視て富岡署に向つた

本縣野球

郡下の豫選

本縣体育協會主催都市支部對抗軟式野球大會の本郡支部豫選は來る六月十四日平商、第一校兩球場で開催されるが出場申込期日は六月七日尙昨年の優勝は平鐵道

武道優勝旗爭奪

昨日植田町で錦青年勝つ

植田町武徳會分會の武道大會は昨十七日午前十時から植田小學校に千種警務課長臨席のもとに開催同地方十ヶ町村の代表選手二百名に依つて白熱戦を演じ剣道優勝旗は錦青年の手に落ちたが成績左の如くである

(剣道優勝旗) 四二點錦
三八點泉、三七點植田(個

金次

田人産業組合 田人信用組合は組合長長川季男氏外七十三名の組合員より縣に産業組合法に依る設立許可を申請中であるが十六日付で許可となつた同組合は出資總額四千二百八十圓に三百口組員百五十人増加を期して居る

産馬功勞披露

既報永戸村字籠中子五六農小野ミナ(丸)さんは過般石城産馬組合から産馬功勞者として銀盃に添へて表彰狀を贈られたので昨十七日自宅に村民百餘名を招き盛大な披露式を行つた

平町人事

△立町當時樺太榮濱郡榮濱村字日島萩原ミエ子
△櫻町鈴木利八氏二女利子
△結婚 南町二一鈴木茂(二四)氏鹿島村字中屋敷江尻フク(二三)さん
△回死 亡
△舊城跡一吉田定夫(二ツ)さん

看護婦急派

平町南町
平看護婦會
電話三〇七

新しい.....
ハナのタネ

入荷致しました 横濱植木會社の特撰品です

平2 **西村屋藥局** 電3

耳鼻咽喉科専門

病室完備 自炊便有

山内醫院

醫學士 山内亨吉

平町(電話六九一番)

磐城セメント會社特約店

久全屋商店

磐城平町五丁目 電話九九九

石炭

コークス

豆炭

阿部石炭店

平 驛前

電話三十七番

本町通りの真中で

三巴の大喧嘩

被害者二名死傷

相棒の興業主逃走

十六日午後六時頃植田町本町通りの真中で好間村大字上好間椎木平坑夫竹永有(三)植田町本町料理店エビス屋事高原新助(四)茨城縣久慈郡久慈町字南町興業師廣井豊(五)の三名が三巴となつて大喧嘩をはじめたが竹永は七首で腹部をえぐら

れ瀕死の重傷を受けて昏倒高原は頭部を斬られて兩名共前田病院に收容されたがこのどさくさに廣井は何處へか逃走して了つたので植田署では廣井を加害者と睨み手配中であるが腹部をえぐられた竹永は今十八日朝絶命した

懷中に呑んで居た

短刀を揮ふ

原因は賭博の金の分前勘定

別項植田の死傷事件に關し植田署は廣井の行衛を嚴探中であるが原因は最初竹永高原、廣井の三名が賭博勝負金の分け前勘定の事から出発して竹永、高原の兩名が先づ取組合ひを演じ廣井

木曾艦上の講習會

縣下の青年學校職員集會

縣主催の青年學校職員講習會は来る廿四日小名濱入港中の軍艦木曾艦上に於いて開かれるが郡下の出席者左

- (赤井)高橋一郎 小崎豊
- (鹿島)小野海 (平町)藤田榮助 鈴木友光 大竹

海軍奏樂を

一般に無料公開

平町在郷軍人分會海軍班は来る廿三日海軍點呼の爲め小名濱に入港する軍艦木曾乗組軍樂隊の一行三十名を廿四日平町に招き第一小學校庭に於いて一般に無料公開すると

裁判所たより

△住所不定無職耶麻郡北山生れ前科四犯佐藤武男(三)が去月中内郷第三校を始め其他學校專問に荒し廻つた窃盜事件の公判は今十八日

明日のラジオ
十九日

今晚も明日も北東の風雲後雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話し音楽
- 後六、二五 基礎英語講座
- 鹽谷榮
- 後七、三〇 講演「糖尿病について」醫學博士大森憲太
- 後八、〇〇 新内「明鳥後正夢浦里」(時次郎道行の段)富士松春太夫
- 喜一 鈴木彦衛

明日の部

- 後八、二〇 物語「野麥の唄」岡田嘉子
- 後九、〇〇 長唄 大阪朝日會館より中繼「教草吉原雀」吉住小三郎他
- 後九、三〇 時報 ニューズ
- 明日の話題 番組豫告
- 前六、三〇 基礎佛語講座

丸山順太郎

- 前七、〇〇 朝の修養
- 同契「加藤咄堂」
- 前九、〇〇 衛生メモ
- 前一〇、一〇 幼児の時間
- 唱歌・音楽 大阪市常盤校児童(桃谷中繼)
- 前一一、三〇 家庭講座
- 「冷水摩擦の仕方と効めについて」梶原三郎
- 後一〇、五〇 トーキョー中繼
- ユナイテッドアース
- 試寫室中繼
- 後二、〇〇 小學生尋二の時間(動物のいろ／＼)天阪市動物園
- 後二、四〇 小學生の尋五
- 高二の音楽時間(樂器の渡しは明十九日午前九時)

暴れ御輿の奉仕者召喚

事件益々擴大

渡邊巡査は依然重態

既報去る十五日の夏井村大國魂神社例祭當夜難査整理中の平署外勤渡邊良夫巡査に神輿の角棒を激突した事件は翌十六日平署の小林警部補が現場を臨検取調べた結果、同署司法部は事件の原因を重大視し今十八日柴司法主任以下の全部員が特高係の應援を受けて同村に

一萬米マラソン

海軍記念日の平商

既報来る二十七日の海軍記念日に催す平商の一萬米マラソンコースは午前九時大町(訓盲院裏)を出發警察署新川町一五丁目一立町一

- 田鹽一野中神谷を経て立神神社に至り歸りは五丁目から大工町一白銀町一役場前
- 一校庭で三十等迄各賞状を授與する由
- △事務員 十九才 中卒
- △トラック助手 廿四才
- △土工夫 卅一才
- △鐵工 廿二才 高卒

福島美術展 勝田蕉 今秋平町に 琴、萩生天泉、太田秋民、酒井一良、柿内青嵐、の諸畫伯を始め本縣出身知名の畫家の團體である福島美術會は今秋平町に展覽會を開催すべく目下準備中

平職業紹介所遷告

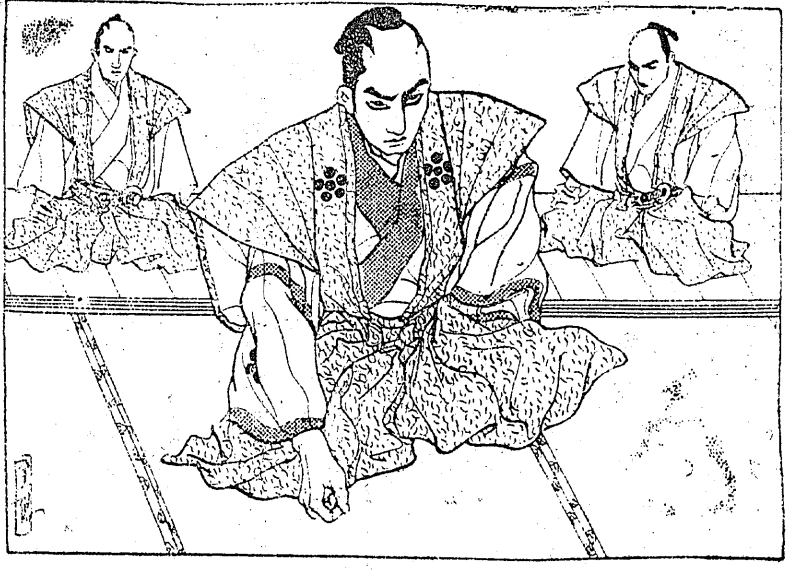
- 回 人を求める方
- 撤水夫 廿二才 卅才 給料七、十圓
- △粕入夫 二〇才 卅五才 給料十、十四圓
- △農夫 四十才迄 給料十五圓
- △粕入夫 卅才迄 給料十二圓
- △精米夫 廿五才迄給六圓
- △採荻夫 四十才迄 日給一圓
- 高卒
- 回 職を求める方

繞る解瓦角の設人々

(作) 悟道軒圓玉 (尾) 丸尾至陽 (畫) 池田播磨守



一二三 大變な被告人
池田播磨守は青木の申すを聞いてビリりと眉をうごかした
播「何と申す、今一應いへ」
彌「屋敷において博奕をいたしたことをおたづねにございませぬ、今日の御吟味はその事のみでございませぬ、もしこの他にも御詮議の筋がございましたらばそれを一まとめにいたしてお答へいたしたく存じます一ヶ條ごとにお答へいたすは面倒に存じます」
とかういつた、播磨守はこれが癖にさばつたか青木をハツタと睨み
播「そのやうなことは申すに及ばぬ、詮議いたすことは數々あるがこの方の問ひに應じて答へればそれでよろしい、博奕をいたしたであらうこの事について申すことがあるか」
彌「おたづねにしたがいがお答へいたします博奕をいたしたことは毛頭おぼえございませぬ」
きつぱり答へたしかし青木はこの訊問についてクスリと笑つた、藏敷には年中博奕が出来てゐる、判りきつたことを存じませんと



へるとは我ながら俺は狸だとかう思うとおかしくなる
池田は青木の答弁を聞き一膝乗り出したが
播「その方は淺草藏前誰袖と申す茶屋にて札差共をおどし大金を掠奪いたしたこ

これも簡単に片付けた。
播磨守は凄じ眼をして彌太郎をにらみ付け
播「その方は深川木場の信濃屋善兵衛方へ参り強談の上金子をこれまた掠奪いたし居つたナ、この事は存せぬとはいへまい、同家を立ち去る際に書き遺したその方の手蹟もあれば存せぬとはいへまい、爾に出るものは爾に還ると壁に書き居つたな、予はその方の手蹟はよく存じ居る、この儀について何と答へるか、證據ある上は知らぬとは申されまい」

と覺えあらう」
と問うた、すると青木が彌「これはまた意外なおたづね、何者よりそのやうなことをお聞きになりましたか毛頭覺えはございませぬ」
彌「これもまた意外」
播「意外とは何ういふことか」
彌「意外とは存じの外と申すこと、また思ひの外と申すことでございます」
播「控へろ、程のこと

はその方が申さずとも存じ居るぞ」
彌「御存知ならばおたづねは御無用」
かう申したがこれでは池田もおこります、青木はむかふをおこらしてさうして急所に入れる訊問をさけるつもり
播「これ青木、壁に書きのこせし筆蹟が何よりの證據だぞ」
彌「それについてお答へを仕ります、信善かたに押入つたもの、書きのこせし筆蹟が自の手蹟に似て居るかどうかを以て手前が信善をおどして金子を奪ひし賊とのお見込みは甚だ迷惑に存じます、よつてこの儀も毛頭おぼえございませぬ」
何をたづねられても知らぬといふ、何故かういふかその事については青木が考へたことがある、これは後にお話をします、池田播磨守は自分の問ふことについて青木は知らぬとばかり答へる、癖癖の強い池田とてデリ／＼してからだに波をうたせ彌太郎をにらみつけて憎い奴だといつたがなほそのほかに二三たづねた、これも知らぬといふ、その内に今の十二時正午になつたについて今日の吟味はこれまでといひ渡し同時に吟味中揚り屋入りを申し付けるとの沙汰、今で申すと今日より收監するとの達し、こゝで彌太郎は牢屋係の役人石出帶刀の手にわたり傳馬町の獄におくられる、青木は旗本ですか

北川外科
平町新川町
醫學博士北川芳夫
電話 四六四

店主が店員を連れ行かれる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場
平・田町
レストサロン
電話 五二番

國旗提灯
平田町
スカーヤ
電話 五二番

橋本屋造花店
神佛具
—速迅價廉—
平町新川町
電話 三六一番

歯科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科大學士 原精一
平町土橋通り
電話 三一三番
原齒科醫院

干やなぎ
美味鯉鹽から
當店特製
鯉節
魚問屋
榮盛賀志
平町四丁目
電話 二一三番